

LPガスCP速報(2022年12月積)

1. 12月積みサウジアラムコLPガスCP

プロパン **650** ^{ドル} (前月比+40^{ドル})

ブタン **650** ^{ドル} (前月比+40^{ドル})

① LPガススポット市況等

原油市況が乱高下するなか、LPガス市場をみると、需要期入りも温暖な気候で暖房需要は低迷、中国新型コロナ感染、ロックダウン拡大を受け石化需要も減退が懸念されたが、パナマ海峡がボトルネックとなり市況を押し上げた。中東市場は、イランの輸出減少も、カタール、クウェート等がスポット販売するなど、産ガス国の高在庫で供給は潤沢、堅調な東南アジアの需要に対応した。ただ、米国積みはパナマ海峡渋滞で、極東着日が不透明となり、中東市場も需給がタイト化、フレート市況、CFR市況を急騰させた。極東CFR市況は第3週にプロパン720^{ドル}、ブタン710^{ドル}に達した。

米国市場をみると、輸出は堅調、高水準が続いているが、需要は低調、供給増で在庫が積み上がってきた。全米プロパン在庫は13週連続で前年同期を上回り、5年平均を上回った。モンベルビュープロパンスポット価格は、在庫増を受けて軟調、原油市況軟化を受けて第4週には420^{ドル}台に値を沈めたが、月間平均は前月比小幅に反発し445^{ドル}どころ(グラフ①)、前年同月比では90^{ドル}以上低い水準となった。

フレート市況は、史上最高値を更新、中東～極東で150^{ドル}、米国～極東で200^{ドル}に達した。パナマ運河の通航日数が2週間～20日超に増加、中東市場も中国、インドの船舶需要のほか、豪州、アフリカ積みの傭船需要もあり需給が逼迫した。冬場の需要期を迎えスポット販売需要の高まり、米国向け喜望峰、スエズ経由の回船が検討されるなどフレート市況は急伸した。

ナフサ市況は堅調、月間平均は前月比18^{ドル}続伸の698^{ドル}どころ。原油市況が反発した中旬には700^{ドル}超となったが、中国石化の需要減退懸念、原油市況軟化で再び700^{ドル}割れ。

バンカーオイルをみると、シンガポールIFO380は月間平均で前月比27^{ドル}反発の421^{ドル}となった。一方、LSMGO(低硫黄マリンガスオイル)は同6^{ドル}の反落で1,041^{ドル}どころ、低水準在庫により高騰しているガスオイル価格は第4週末に1,000^{ドル}割れとなった。

12月CPは前年同月比プロパン145^{ドル}、ブタン100^{ドル}それぞれ下落。原油(アラビアン・ライト)熱量等価換算(下記参照)では、前月に比べプロパン、ブタン8ポイント上昇、前年同月比ではプロパン35、ブタン28ポイント低い。

	第1週	第2週	第3週	第4週	平均
フレート	116	138	148	140	135.5
CP先物指標：P	620	630	630	645	631
CP先物指標：B	615	620	625	640	625

② 原油市況等

11月の原油市況をみると、月間平均では2ヶ月ぶりの下落で、一時、ロシアのウクライナ侵攻以前の1月以来の安値を記録した。原油市況の重石となっているのは、欧米中央銀行の利上げに伴う景気後退や中国のコロナ対策規制による需要減退懸念で、一方、供給は11月からOPECプラスが減産を実施(12月会合の追加減産は不透明)、12月には対ロシア制裁として原油の上限価格導入措置が発効され(価格設定が難航)、供給タイト感が市況を下支えしている。

米国の原油生産量は2020年4月以来の1,200万b/d超が続き、原油・石油製品輸出は過去最高水準となっているが、石油製品在庫は留出油を中心に超低水準。現行マーケットは需給タイトとリセッション懸念で綱引きが行われているが、ポジション縮小が顕著で流動性が低く、ボラティリティが高い状況が続いている。なお、OPECプラスが懸念しているのは、WTI先物1～3月限が供給過剰を示すコンタンゴ(順ザヤ)となったこと。

○11月積みアラビアン・ライト(11月1～29日までの想定)は94.00^{ドル}(前月比-2.81^{ドル})

熱量等価AL100% プロパン770.70^{ドル/トン} ブタン760.13^{ドル/トン}

AL比 プロパン84.34% ブタン85.51%

*上記ALはE I N推計、確定値は後日Webサイトでご確認ください。

2. 2022年12月LPガス仕切（CP・MBコスト変動分）への影響

適用為替	TTS	P円建CFR	B円建CFR	P前月比	B前月比
①20日締め	146.47	102,300	104,800	+4,600	+7,800
②末日締め	143.48	100,500	103,400	+2,400	+5,300

*TTS平均等について、①が10月21日～11月20日、②11月1～30日までで想定。①、②いずれも前月・当月CP50%案分。MB合成の比率は①、②ともにCP70%、MB30%で算定。①、②ともに中東・北米フレートを含むCFRコストを表示。

なお、上記MBは11月28日までの価格を基にEINで試算（445ドル/トン）したもので、メーカー各社の最終確定値とは異なる。また、各社の仕切はフレート分、バンカーサーチャージ等の改定やフォーミュラ見直しもなされるため、仕切等の詳細はWebサイトを参照。

①米国プロパンスポット価格推移



②米プロパン在庫推移(全米・メキシコ湾)

